

観光シーズンの到来!

最盛期に向けてそれぞれ始動! 一商標登録やPRなど

◆(株)積丹観光振興公社「水中展望船」

体験型観光をPR

昨年まで水中展望船「ニューしゃこたん号」は町が所有し、指定管理者制度により(株)積丹観光振興公社が運航していました。今年3月に町は、公社へ船舶の売却を行い、今シーズンから公社の所有船舶として運航を

行います。

今後の一層の集客に向け、公社と町は、3月29日に北海道が主催する「北海道体験型観光商談会」に参加しました。

近年の旅行形態や旅行者ニーズの多様化により、道内の体験型観光が注目されており、特に海外からの入込みも期待されて

◆レストハウス「ペニンシュラ」

「しゃこたんブルーソフトクリーム」を商標登録

原料に積丹産牛乳を使用

レストハウス「ペニンシュラ」の今年度の営業が4月22日に開始されました。

シルバークウアイクなどにより一昨年度を上回る来客数となった昨年度に引き続き、今年も2月に商標登録を行い、積丹産牛乳を原料にした「しゃこたんブルーソフトクリーム」や昨年新メニューとして登場し好評を得ている「漁師の炙り御膳」など

います。この商談会は毎年開催され今回は、旅行事業者約50社と観光事業者約60社が集まりました。道内各地の体験型観光のPRや

情報交換の場で、積丹体験観光の魅力をもPRしました。



により今シーズンも多く集客を目指します。

営業時間は午前10時から午後5時まで。(レストランは午前11時から午後5時まで)営業期間は10月末までの予定です。

「神威岬」バス停を増設 定期観光バスも運行

4月24日から10月24日までの観光シーズン中、中央バス「積丹線」と「高速しゃこたん号」に神威岬バス停が増設されます。

無事故を祈って 安全祈願祭を挙行

今年の運航開始を翌日に控えた4月16日、(株)積丹観光振興公社が運航する水中展望船「ニューしゃこたん号」の安全運航祈願祭が行われました。

海中公園に指定される、美しい「しゃこたんブルー」の海を身近に体験できるグラスボートは、毎年3万人を超える利用者が訪れる人気ぶりで、今年もたくさんの方が期待されています。



運航時間は午前8時30分から午後4時30分の不定期運航で営業期間は10月下旬までとなります。



また、6月1日から8月31日までの間には札幌発着の定期観光バスの運行が行われるなど、手軽に「岬めぐり」を楽しめるよう利用者の利便性の向上が図られます。

医療費が払えない!?

国民健康保険税の未納増大で再び町の財政悪化の危険が

平成21年度収納率84%
前年同期比約780万円減

早期納入をお願いします

落ちこむ税金 増える滞納額

町財政の平成21年度決算見通しでは、未だ約2億8,700万円もの巨額な累積赤字額が見込まれており、歳出の抑制と併せて収入の確保が大変重要な課題となっています。こうしたなか、国民健康保険

税の収納率は、年々減少傾向をたどっており、平成22年3月末現在の収納率は、約84%（前年同期86・81%）と収納率の悪化が顕著であった昨年をさらに下回っています。

また、今年度分の国民健康保険税は1,600万円以上が未納となっているほか、これとは別に、滞納繰越額は6,922万円にも上ります。

医療費の確保のために

国民健康保険事業は、みんなの国民健康保険税で医療費を賄う仕組みの制度事業です。

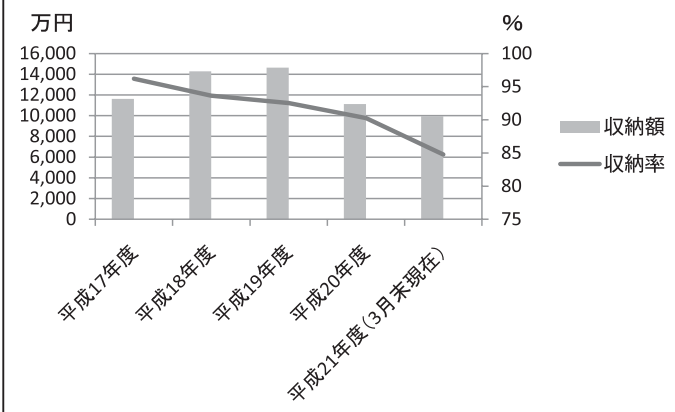
積丹町の国民健康保険加入率は、63・1%と後志管内で一番高い状況にあり、国民健康保険事業の果たす役割は大きく、そのための税収確保は大変重要です。

独立採算性を原則とする特別会計で運営されている国民健康保険事業は、加入者が納める国民健康保険税と国

からの交付金でまかなわれており、不足分については一般会計からの繰入金で補っていることから、税収入が落ち込むと、一般会計からの繰入金を多く支出することにつながり、町全体の財政の運営を危うくし、財政再生団体に指定される要因となります。

医療給付費の財政確保や国保診療所の維持、町財政の一刻も早い健全化のため国民健康保険税の早期納入にご理解とご協力をお願いします。

国民健康保険税収納率と収納額の推移



積丹町地域防災計画を策定

◎避難場所の周知や防災マップの作成を予定

◎IP告知機や全国瞬時警報

システムの整備も実施

町は、津波や台風等の災害から町民の生命や身体、財産を守るための「積丹町地域防災計画」を、北海道の防災計画との整合性を図り、より実態に即した計画となるよう、これまでの計画を全面的に見直した変更計画をこの度、策定しました。

新たな計画は、町内外の防災関係機関で構成する「積丹町防災会議」を開催し、広くご意見をいただき、北海道との協議を経て、策定したものです。

また、計画策定と併せ、町民向け防災マニュアルとして、防災の知識や心構え等を記した「防災のしおり」や、津波浸水予測や土砂崩れなどの危険箇所を記した「防災マップ」を作成し、全戸に配布する予定です。

今後、更に住民の避難

誘導体制等の充実を図るべく、避難箇所の適地選定などを各町内会と相談しながら、防災対策の充実をめざすこととしています。

特に、町では今年度施工予定の「積丹町地域情報通信基盤整備事業」により整備されるIP告知機や国の全国瞬時警報システムと併せ、町民に対する災害時の情報提供や避難誘導対策など、関係機関との連携強化による、防災体制の確立に取り組んでまいります。

